

Compass

2005.Sep.

<http://homepage1.nifty.com/nikkenkyo/>

- 日建協第82回定期大会・名刺交換会報告

私たちの力を信じ、建設産業の明るい未来へ羽ばたこう。

- 新議長、新副議長座談会

「2005年度の活動にむけた新たな決意」

- 2005年度本部役員紹介

- 退任にあたってー前議長 栗本毅「日建協本部を卒業します」

- 加盟組合員参加による発注者側労働組合との意見交換会

「パートナー」として直接対話してみませんか?

- 産業外に対する理解促進活動

社会資本整備の重要性と建設産業を正しく理解してもらうために

- 加盟組合交流日誌 日建協があなたの組合に訪問しました。

- 2005年度 Compassモニター募集

- ◆NIKKEN KYO TOPICS ◆クロスワードタイム 他 ◆東西組合細見 佐藤秀労働組合



日建協

日建協ホームページアドレス
<http://homepage1.nifty.com/nikkenkyo/>

新年度の活動をスタートするにあたって

池口・定期大会も終わり、2005年度の活動がいよいよスタートしました。今日は、日建協活動の新たなけん引役となつた、宮野議長と時田、佐久間両副議長のお三方に「2005年度の活動にむけた新たな決意」と題し、所信表明をお聞きしたいと思います。

2005年度は「私たちの力を信じ、建設産業の明るい未来へ羽ばたこう。」というスローガンを掲げました。このスローガンには、建設産業で働く私たちの思いが込められています。まずは、みんなの新年度の活動にむけた意気込みとしての『所信表明』を聞かせてください。

新議長、新副議長座談会

2005年度の活動に むけた新たな決意



佐久間信行 副議長

池口・建設産業の明るい未来へむけた「行動」

建設産業の明るい未来へ

池口・日建協は、「直接対話」と「直接参加」というキーワードで、様々な取り組みを行っています。2005年

ばたくことができるのではないでしょうか？
日建協は「まわりの様子」を掴むことができる場、との2年間の活動で実感しています。行政、業界団体、他産業労働組合、発注者、研究機関・・・さまざまな人たちとのつながりを活かす必要があります。私たちが自信を持つ力強く羽ばたくためにも、この産業の内外を問わず、たくさんの人たちと交流し、活動していきたいです。

池口・お三方それぞれの熱い思いが伝わってきます。宮野議長は新議長としての1年目、時田、佐久間両副議長においては、日建協活動の集大成としての1年、パワーミなぎるリーダーシップに期待しています。



池口 誠 事務局長

度の日建協活動も引き続き「産業政策活動」と「加盟組合支援」を「本の柱」として「データバンク機能」と「組織」を活動の基礎と地盤と位置づけ「働きがい」や「産業としての魅力」を含めた「労働条件の向上」を目指した行動を行います。それは、2005年度の取り組みにおいて、みなさんの思いをどのように「行動」として進めていくかを聞かせてください。

宮野・「直接対話と直接参加」この活動は本当に重要なと思っています。

直接会うと、その人の、顔の表情やうなづくなどの仕草から、相手の人の気持ちが言葉には出なくてもわかることが多いですね。特に産業政策活動のなかの提言活動では、相手にとってあまり耳ざわりのよくない話題もあるので、相手の表情を見ることがあります。そこで、いけになつたり、ちょっとトーンを落としたりと、別

望むことは、「私たちが、現場で、事務所で、もっと明るく働いていきたい。」ということです。今まで苦しい時代を過ぎてきたからこそ、特に強く感じています。私は、現場を支援する業務の経験が長かつたのですが、現場の事務所に行くと、現場の雰囲気は、事務所に入った時点ではわかります。その雰囲気で、工事が順調か、不調か、人間関係が良好かはほとんど想像できます。現場の状況は、組合員の意識だけでは、管理できない点もありますが、気持ちの部分は自分で管理することができます。と言ってみても実際は、目前の業務をこなすことが優先で、

1日の作業が終わって、インターにて明るい未来への第一歩として、まずは簡単にできる、「おはようございます！」と元気な声で挨拶ができる環境を、加盟組合の皆さんとつくつていきたいですね。

時田・今年のスローガンには「私たちには十分すぎるほどの力があるのに、その力の存在に気がついてない！もつと自信をもつてチャレンジしよう！」という意味が込められています。ただし、ただがむしやらにアタックするのではなくて、日建協だつたら51年、各加盟組合、加盟組合企業だつたらもつと長い時間だと思います。ただし、先輩方が残してきた貴重な経験や足跡をしっかりと継承しながら、新しいフィールドに目をむけていきたいですね。あまたの諸先輩方が積み重ねてきた活動と思いを、



宮野一也 議長

引き継ぐとともに、私自身が2年間の活動で得た経験をプラスして、2005年度を駆け抜けていきたいと思っています。労働基準法改正の動きや、60歳以上で続けです！でも、このような時だからこそ、加盟組合員が議論を重ね、情報を交換することが課題を乗り越えるために必要です。そのため、できることをいろいろ考えて実践していくたいです。

佐久間・もし自分が鳥になつたとして、目的地へむけて羽ばたく時には、いつたい何が必要と考えるでしょうか？本当に自分の力だけを信じて「エイ」と飛びたつていいのでしょうか？もちろん最後は力を信じることができます！」と元気な声で挨拶ができる環境を、加盟組合の皆さんとつくつていきたいですね。

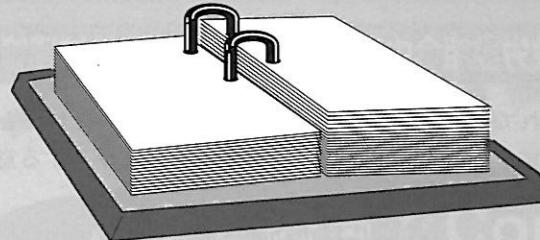


時田 学 副議長

に交渉術というほどではないものの、いろいろ考えながら提言してきました。そうすると、実際は、相手の人も悩んでいたんだとわかることが多いと言っています。私は、組合活動の原点はここにあり、と一人で悦に入りましたが、すべての活動において繰り返し「直接」活動により課題の解決につながっていく。このことを「強く信じて（今年のスローガンです）」、今年もどんどんやつていきます。

時田・仕事でも同じだと思いますが、労働組合の活動にとつては、「人と人とのつながり」がすべてだと思っています。組合員のみなさんも同じだと思いますが、何か相談事があつたときは、やっぱりよく知っている人に相談を持ちかけますよね。私たちの活動でも、同じだと思います。やっぱり加盟組合のみなさんから、「相談してみよう」と思われる存在でありたいと思っています。そのためには、加盟組合の会議などに積極的に参加して、直接、話をする機会を増やしていきたいと思つています。活動のなかで、合理化・効率化を意識しなければいけない面もあります。活動のなかで、合理的・効率化を意識しなければいけない面もあるとは思いますが、私たちの活動は、人と人とのつながりのうえに成り立つているわけですから、コツコツと地道に組合員のみなさんの意見を聴いたり、理解を求めるために、足しげく通りたりすること、つまり小さな、だけ

池口・みなさんの考え方からも、やはり日建協の活動は、その全てが人ととの直接対話から始まるということが理解できますね。2005年度は、今まで以上に組合員のみなさんと顔を合わせる機会を多くつくり、心と力を合わせ、より多くのことにチャレンジしていきたいと思います。



日建協があなたの組合に訪問しました。

日建協では、活動を理解してもらうために、加盟組合との「直接対話」を積極的に行なっています。今回は職場訪問を含む、6つの加盟組合との交流をレポートします。仲間たちがどんなことに関心をもって取り組んでいるか、ぜひご覧下さい。

交流日誌 3 6月23日(木) 中山組職員労働組合

中山組職員労働組合の「時短推進に関する勉強会」に参加しました。中山組職員労働組合では、今年の春の賃金交渉において、時短推進活動をさらに進めるために、労使で取り組む「時短推進委員会」の設置を要求し、実現しました。今回の勉強会は、新たに設置した「時短推進委員会」をより有意義に進めるために、既に日建協の各加盟組合で取り組んでいる委員会での、取り組み事例などを参考に今後の活動の検討を行うために開催されました。

日建協からは、「労使が時短推進活動に対して意見を対立させるのではなく、出席者がお互いに建設的な意見を出すように進める」など、労使委員会の運営におけるポイントについての説明や、先行して取り組んでいる加盟組合の事例を紹介しました。

また、時短推進活動を進めるためには、自社の特徴と問題をよく把握し、共通認識を持つことが重要であることから、参加した執行委員の皆さんと、時短推進活動に関して、幅広い意見交換を行いました。参加者からは「職場の雰囲気作りが時短には大切だ。上司は部下から『お先に失礼します』と言われやすい上司になり、部下

も上司に対してはっきりとものが言える関係になる必要がある」「施主への提出書類を作るときには、『よりよい書類をつくりたい』といった意識があるのも現実だ」「内勤の立場から、少しでも外勤の仕事を助けるためできることはないだろうか?」など、忌憚のない意見が交わされました。

中山組職員労働組合では、今回の勉強会での議論をさらに深め、労使での時短推進委員会をつうじて時短の実現に取り組んでいます。

さまざまな職種の方が一堂に会し、時短に対する課題について討議を行う機会に参加することができ、今後の時短推進活動を展開する上で貴重な体験をすることができました。



交流日誌 4 6月24日(金) 東鉄工業労働組合

東鉄工業労働組合の執行委員会において、日建協活動に対する勉強会が開催されました。

勉強会では、「公共工事における無報酬業務を解消するために」と「民間分譲マンション工事における契約体质改善にむけて」の2つの提言活動の経過や、社会资本整備を担う建設産業への理解を目的に協力を進める「100万人の市民現場見学会」の実施状況、また「新中期時短方針2004」を中心とした時短推進活動や、雇用延長・定年延長専門委員会の経過報告など、日建協の主要な活動を説明した後、質疑応答形式で進められました。

最初は固かった執行委員も、栗本議長の「どんな些細な質問でも結構です。日建協活動に対し、普段から疑問に思っていることや、こうして顔をあわせて話しているからこそ聞けることを、忌憚無く意見交換しましょう」という一言から、様々な意見が活発に交わされました。日建協会費についての質問から、現在東鉄工業労働組合内でも議論を進める雇用延長・定年延長の課題に関し

て、日建協の専門委員会報告への質問などがありました。

特に作業所に勤務する執行委員からの、提言活動に対する関心が高く、「作業所に勤務しているが、提言内容は多くの部分で賛同できる」などの意見から、発注者との意見交換の状況を熱心に質問されるなど、参加した日建協本部でも、さらに提言の実現に向けて取り組まなければならないという身の引き締まる思いを感じるほどの、熱心な意見がだされました。今回の勉強会をつうじて、今まで以上に日建協活動を身近に感じてくれたことだと思います。



交流日誌 1 5月10日(火) 大日本土木労働組合

6月の時短推進強化月間を目前に控え、大日本土木労働組合の本部執行部と時短推進活動について意見交換を行いました。

大日本土木労働組合では、時短推進にむけて、労使による委員会を設置して取り組んでいます。今回の意見交換では、「どのように会社側に働きかけければ、具体的な解決策について労使で取り組むことができるか」、「休みやすい職場環境をつくるためには、どのような点を工夫すればいいか」など、労使が一体となった時短推進活動をさらに進めるために工夫する取り組み方法などについて、意見を交わしました。

労使での取り組みに関しては、「まず、作業所のことを熟知している責任者と、現状の作業所が抱える問題点や、労働時間や休日取得状況の実態について、共通認識を持つこと」そして、「一つひとつの問題点の解決方法について、前向きな検討ができる関係を構築することが重要だ」など、労使委員会の進め方について意見を交わしました。そして、職場環境に関しては、「自分たちの仕事に対して責任と自信を持つことは、とても大切なこと

あるが、時短を進めるためには、上司も部下も、常に時短に対する意識を持ち続けることが不可欠であり、そのことを忘れてしまっては、時短は実現し得ない」など、熱のこもった意見を交わしました。また、日建協からは、6月11日の統一土曜閉所日を前に、実際の作業所において、土曜閉所をするうえでの問題点などについての意見を直接聴くことができました。

「時短は永遠のテーマ」と言われることが多いのですが、今回の意見交換をつうじて、大日本土木労働組合が、時短推進にむけて確実な一步を踏み出したことを感じることができました。



交流日誌 2 5月28日(土) 奥村組職員組合

奥村組職員組合の若手組合員の意見交換の場である「U-35（35歳以下の組合員の意味）」に参加しました。この会議は、若手組合員の意見を活動に反映させるとともに、組合活動の次世代を担う組合員の交流及びレベルアップを目的とするものです。土曜日にもかかわらず、さまざまな課題に対して、全国から集まった組合員が熱心な議論を交わしました。

今回の会議は、来年の4月から施行される「改正高年法」に伴い、「雇用延長・定年延長について」をテーマにして行われました。会議の資料には、日建協の「雇用延長・定年延長専門委員会報告書」を活用し、まず、法律の説明などを行ったうえで、具体的な課題について議論を行いました。実際に「60歳以降、どのように働いていくのか」「会社としては、どのような制度を構築するのが望ましいか」など、若手の組合員にとっては、自分たちが60歳に到達するにはまだ時間があり、難しい課題と思われがちでしたが、出席した14名の皆さんからは、60歳以降の働き方について「本人の希望により全く新し

い職種に変わる、チャレンジ雇用のように、活気のできる制度はどうか」「世代交代の問題はあるが、新入社員と違って、今までの経験を活かしノウハウを発揮できる」など積極的に意見が交わされました。

日建協からは、日建協の専門委員会で議論を行った問題点である「60歳以降の具体的な働き方」や「60歳以降の処遇をどうするか?」などについての投げかけや、改正高年法についての質疑応答などを行ないました。日建協では、今回の会議をつうじて聴くことができた組合員の生の意見を、今後の活動に反映していきます。



Compassモニター募集

2005年度

アイデアパーソン 求む！

あなたの声で Compass が変わる！?

.....

今回のCompass 9月号はいかがでしたか？
「こうすればよいのに」「この記事はよかったです」…色々な感想や意見があると思います。

今年度はより新鮮で、熱のこもった意見をいただきたいと思い、このCompass誌上で、全ての加盟組合員を対象に、Compassモニターを募集します。

字が小さい、家族と一緒に楽しめる記事が少ないとこれまで読んできて、気付いた点がたくさんあると思います。そうしたことも発信して下さい。また、こうすればもっと身近に感じられるようになるのに、今話題になっていることについて、特集を企画してほしいなど、建設的な提案もドンドン出して下さい。あなたの率直な意見・アイデアで、Compassをより良く、変えていきましょう。

Compassをこれまであまり読んでなかつた方も、長年愛着を持って親しんで下さっている方も、老若男女問わず、熱意のある方のモニターへの積極的な応募をお待ちしています。

.....

応募要項

モニター概要：日建協機関誌「Compass」を読んで、感想や要望を寄せていただく活動です。

モニター期間：「Compass」2005年9月号～2006年6月号までの1年間 計5回 および 号外

モニター対象者：日建協加盟組合員 確実に年5回のモニター活動に参加して、積極的な意見をいただける、やる気のある方

モニタリング方法：E-mail

モニターへのお礼：終了時に粗品を贈呈

応募期限：2005年9月30日（金）

応募詳細：はがき、FAX、E-mail いずれの応募でも構いません。
はがき宛先

〒169-0075

新宿区高田馬場1-31-16 守山ビル3階
日建協「2005年度Compassモニター」係

FAX 03-5285-3879

E-mail XBL08009@nifty.com 工藤

応募された方には、日建協本部よりおって連絡しますので、加盟組合名・氏名・連絡先（TEL、FAX、E-mail）を全て記載の上、ご応募ください。

締切迫る！

総合医療サポート制度の最終募集

①入院給付は1泊2日から365日まで給付される。

②三大疾病（がん、急性心筋梗塞、脳卒中）および所定の生活習慣病（糖尿病、高血圧性疾患、腎臓病、肝臓病）、女性疾患にかかったら入院時に倍額給付される。

③親介護を含めた介護への保障がある。

第一次募集（締切日6月30日）では、例年より多くの組合員の方が申し込まれました。Compassを見ている今が、最後のチャンスです。大至急申込用紙を日建協までお送り下さい。また、申込用紙やパンフレットがお手元にない方は、今すぐご連絡下さい。

最終募集締切日 9月22日（木）必着！

お申込・お問合せは、日建協 森、八木まで

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-31-16 守山ビル3階
TEL 03-5285-3870

交流日誌 5

7月7日(木)～8日(金) 五洋建設労働組合中国支部 日建協中国地域連絡会

五洋建設労働組合中国支部の2つの作業所（海上土木工事と建築工事）を訪れました。今回の職場訪問は、「現場の第一線で勤務する組合員の実態を、日建協本部に知ってもらうと同時に幅広く意見交換してもらいたい。」という、野中委員長の思いで実現しました。広島市出島地区港湾環境整備事業の一環として行なわれている廃棄物処理護岸工事では、交通船で海底地盤の深層混合処理を行う作業船に乗り込み、杭造成作業の様子を見学しました。見学後の意見交換では、作業所に勤務する組合員から海上工事における作業環境の特殊性などについての話を聞くことができました。また、わずか10ヶ月の工期で鉄骨造5階建、延床面積約7万平方メートルの物流倉庫を施工する、運送会社の流通センター新築工事では、1日平均300人を超える作業員が従事する多忙な現場を見学しました。見学後に実施した意見交換会では、日曜日は閉所できているものの長時間労働が続いている状況や「仕事の魅力」などについて議論しました。参加した新入社員の方からは「毎日の業務は大変だが、将来に向けていい勉強になっている」という意見も出されました。

職場訪問の合間には、五洋建設労働組合中国支部役員との意見交換会も行なわれました。時短が進まず疲弊している職場の状況について、栗本議長から「人に働く

されているのではなく、自分の意思で働いているという自觉をもって、現状を自らが変えていこうとする意識が必要だ」との思いを伝えました。

また、今回の広島市訪問を機に、日建協加盟組合による中国地域連絡会が開催され、加盟組合の中国（広島）支部役員のみなさんと、各加盟組合や支部のおかれられた現状についての情報交換や、日建協活動に対する期待と要望についてなど、幅広い議論を行ないました。

今回の職場訪問で直接聞くことのできた組合員の生の声を、今後の日建協活動に生かしていきたいと思います。



深層混合処理船(ボコム2号)にて
(廃棄物処理護岸工事)



物流倉庫5階フロアにて
(流通センター新築工事)

交流日誌 6

7月9日(土) 飛島建設労働組合

飛島建設労働組合は7月に新年度を迎え、全国から新メンバーが集い、第1回支部長・書記長会議が開催されました。この会議は、新執行部として2005年度の活動方針や、組合活動を行ううえで必要となる知識について、より理解を深めるために開催しているものです。日建協からは、「日建協個別賃金水準」と「改正高年法」についての説明を行いました。

日建協個別賃金水準は、建設産業で働く私たちのあるべき賃金の水準を示したものであり、賃金交渉において要求額を検討するうえで重要な役割をはたすものです。会議では、この日建協個別賃金水準が必要となった経緯や、賃金水準の決め方、また、賃金交渉での取り組み方についての説明を行いました。参加者からは「一時金の考え方として『基準内賃金の5ヶ月分』とあるが、他産業や他社の現状では無理のない水準なのか？」「教育費用の内訳を見たが、実際にはもっとかかると思う」などの質問や意見が出されました。

また、来年4月から施行される改正高年法については、まず、法律の内容について説明を行いました。そのうえで「自分たちの職場で60歳以上の職員にどのような仕事

をしてもらいたい？」、「また、自分たちは60歳以降、どのような働き方をしたい？」などについて参加者と意見交換を行いました。この法律が施行されることで、全ての企業が60歳以降も雇用機会を確保する義務が生じることから、当面の大きな問題として、参加者のみなさんは熱心に説明を聞き、質疑応答や意見交換が行われました。

全国から新任の役員が一堂に集まり、これから活動にむけて、熱心に説明に耳を傾け、積極的に発言を行なう姿に触れる事ができる貴重な会議に参加することができました。



- 設立：1974年3月
- 組合員数：102名（2005年7月現在）
- 中央執行委員会：6名
- 中央執行委員会：毎月2回開催

ゆとりをもって—Viva slow life—

佐藤秀労働組合

新宿といえば、オフィスや商業関係の高層ビルが立ち並ぶ繁華な都市のイメージがありますが、今回訪問した、佐藤秀労働組合は、緑豊かな都民の憩いの場、新宿御苑の近くに事務所があります。定期大会前の打合せに集まっておられた、新旧の委員長を含め、執行部のみなさんに話を伺いました。

昨年12月に、約半年間という非常に短い期間で、民間再生手続きの終結を迎えるました。

大変なご苦労があったと思いますが、よろしかったらその時のお話を聞かせていただけますか？

和智書記長——

もちろん、初めてのことに戸惑いましたが、まず「雇用の確保」と「組合員の混乱の回避」を第一に考えました。そのために組合員が安心できる正確な情報の提供を心がけましたが、その際には日建協の資料、また加盟組合との情報交換がよいヒントとなって、適切な対応ができたと思います。会社の再生にむけては、労使が協力しての取り組みが不可欠になりますが、それが原因で職員個人にかかる負荷が大きくなり過ぎて、労働条件が極度に悪化することがないように注意しました。

組合のスローガンはありますか。

土屋委員長——

「Viva slow life “ゆとりをもって”」というスローガンを今回新しく掲げました。民事再生の非常に繁忙だった時期が一段落したので、少し落ち着いて、組合活動にじっくりと取り組みたい、また組合員にも心にゆとりを持って欲しい、という思いを込めています。

組合として力を入れて取り組んでいる課題がありましたら教えて下さい。

和智書記長——

スローガンともリンクしますが、時短活動に取り組んでいます。今回労使で、業務効率向上委員会を初めて設置して、時短について会社側と取り組んでいきます。すぐに成果は



左から、
神成副書記長、
熊田副執行委員長、
和智書記長、
山崎前委員長、
土屋委員長、
西田副書記長、
竹井組織委員会幹事長

表れないかもしれません、徐々にでも改善していきたいと考えています。

組合執行部から組合員のみなさんに望むことはなんでしょうか。

山崎前委員長

——組合活動を決して、他人事と思わず、自分のこととして真剣に考えて、参加してほしいと思います。山崎前委員長
積極的な発言は、必ず他の人に影響を与えるものです。一人ひとりの意見が会社をよくすることにつながります。



今後、日建協を通して、どのような活動に取り組んでみたいですか？

和智書記長——

最近の日建協は、前向きでわかりやすい活動をしていると感じています。これからも建設専門紙への記事掲載など、様々な広報を通してわたしたちの建設産業について、發

言してほしいと思います。また諸会議、グループ会議における生の情報交換も自組合の活動に役立っています。今後は私たちから

も加盟組合の役に立つ情報をより積極的に発信できれば、と考えています。

最後に、どうしてもこれだけは言っておきたいということはありますか？

土屋委員長——

執行部はあくまで、組合員一人ひとりのまとめ役です。組合活動への積極的な参加、発言をお願いします。

山崎前委員長——

民事再生の時は、初めての体験で、何をどうしたらよいのか全く分からぬ中で、日建協に大変助けになってもらいました。これからも加盟組合のサポート役として頑張ってほしいと思います。また、組合員のみなさんの協力にも感謝しています。今後の組合活動にも関心をもって参加してほしいと思います。



定期大会直前の、大変お忙しい中、執行部全員で取材に応じてくださり、有難うございました。

自分の組合を一言で言うと、と質問したら、「大人の組合」つまり組合員一人一人に理解力があり、忍耐強く、柔軟な対応ができると表現されました。まさに取材に応じて下さった、執行部の皆さんがあなたを代表して体現されている、と感じました。困難な時期を乗り越え、新体制での執行部の活躍に期待しています。

